

福岡市美術館 令和5年度事業報告

令和6年3月25日
令和5年度福岡市美術館協議会

Fukuoka Art Next

福岡市美術館、福岡アジア美術館のこれまでの取り組みを発展させ、彩りにあふれたアートの街をめざす「Fukuoka Art Next」を推進。

- ①**今月のアート**
- ②**FaN Week2023 (9/16～10/22)**
- ③**アートフェアアジア福岡2023 (9/22～24)**
- ④**Artist Cafe Fukuoka**
- ⑤**レジデンス事業**
- ⑥**第2回福岡アートアワード**
- ⑦**Fukuoka Wall Art Project2023**



一般社団法人アートフェアアジア福岡

福岡市美術館における事業

◆ 今月のアート

市長定例会見時に、福岡拠点のアーティストの作品を掲示し紹介するとともに、市役所9階特別応接室に展示。

柏木菜々子
《ハコブネ来福》
2021年



◆ FaN Week 2023 (9/16~10/22)

- ・「コレクターズII -アートと生きる3人-」 (近現代美術室B/12,483名)
- ・塩田千春新作公開



◆ 第2回福岡アートアワード

福岡市内で目覚ましい活動をおこなったアーティストを対象に、作品の買い上げをもって贈賞。

応募者数80名。現在最終選考中、3月に受賞者・作品発表予定。



福岡市美術館における事業

◆ 今月のアート

市長定例会見時に、福岡拠点のアーティストの作品を掲示し紹介するとともに、市役所9階特別応接室に展示。

令和5年度
紹介アーティスト一覧

4月	柏木 菜々子
5月	村田 優希
6月	木森 圭一郎
7月	yakkii
8月	谷尾 勇滋
11月	立木 美江
12月	三好 直樹
1月	すぎもり えいとく



令和6年1月 市長会見の様子

福岡市美術館における事業

◆ FaN Week 2023 (9/16~10/22)

- ・「コレクターズII -アートと生きる3人-」(近現代美術室B/12,483名)

参加したコレクター



竹内 真氏
(ビジュアル(株)取締役)



武富 恭美氏
(ディーディーティー
一級建築士事務所代表)



西高辻 信宏氏
(大宰府天満宮権宮司)



会場風景(近現代美術室B)

- ・塩田千春新作公開(近現代美術室C)

作品詳細は34P

福岡市美術館における事業

◆第2回福岡アートアワード

福岡市内で目覚ましい活動をおこなったアーティストを対象に、作品の買い上げをもって贈賞。
応募者数80名。現在最終選考中、3月に受賞者・作品発表予定。

第1回アートアワード受賞者

市長賞 鎌田 友介

《Japanese houses (Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》

優秀賞 チョン・ユギョン

《Let's go to the celebration square of vivtory!》

優秀賞 石原 海

《重力の光》



鎌田友介

《Japanese houses
(Taiwan/Brazil/Korea/U.S./Japan)》
2021年

1 概要

2 事業について

- (1) 展示活動（特別展、企画展、コレクション展、公募展）
- (2) 教育普及活動
- (3) 収集活動（購入、寄贈）
- (4) 調査・研究活動
- (5) 貸館利用
- (6) 広報・集客に関すること 等

3 施設利用状況

1 概要

■開館 1979年11月3日開館

2019年3月21日リニューアルオープン

■規模 鉄筋コンクリート 2階+塔屋

敷地面積25,845.71㎡ 延床面積14,713.66㎡ 建築面積8,639.28㎡

■展示室

1階 東光院仏教美術室、古美術企画展示室、松永記念館室

2階 近現代美術室（A～C）、特別展示室、ギャラリーA～F

■その他施設

1階 ミュージアムホール、アートスタジオ、レクチャールーム
カフェ、ミュージアムショップ

2階 キッズスペース、情報コーナー、レストラン

■開館時間 午前9時30分～午後5時30分 月曜日休館

（7～10月の金・土曜日は午後8時まで開館）

1 概要

■ 組織

- ・ 総館長
- ・ 館長（事業管理課、学芸課総括）

※令和6年3月現在

事業管理課長	—	事業管理係 係長1、事務2、会計年度任用職員1
学芸課長	—	近現代美術係 係長1、学芸員3
	—	古美術係 係長1（課長兼任）、学芸員1、会計年度任用職員2
	—	教育普及係 係長1、学芸員1、会計年度任用職員2

■ 令和5年度予算

内容	予算額（千円）	備考
【歳出】	837,799	施設管理、展覧会経費、教育普及、資料収集費 など
【歳入】	50,740	施設使用料、駐車場、コレクション展観覧料、ふくおか応援寄付 など

(1) 展示活動

特別展

- ・日本の巨大ロボット群像（令和5年9月9日～11月12日、23,634人）
- ・永遠の都ローマ展（令和6年1月5日～3月10日、開催中）

企画展

- ・朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—（令和5年9月13日～10月22日、30,220人）
- ・オチ・オサム展（令和6年1月24日～3月24日、開催中）

コレクション展

- ・近現代美術
- ・古美術

公募展・貸館利用

- ・福岡市美術展（第54回令和5年3月28日～4月2日、第55回令和6年3月26日～3月31日）
- ・令和5年度貸館利用 146件 223,624人 ※令和6年1月末現在/特別展示室4件含む
（令和4年度利用状況 122件 91,394人 ※令和5年1月末時点/特別展示室1件含む）

(1) 展示活動

特別展

日本の巨大ロボット群像－巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現－

会期	令和5年9月9日～11月12日 56日間
主催	福岡市美術館、西日本新聞イベントサービス、ぴあ他
観覧者数	23,634人（有料18,792人）
内容	他国のアニメーションには見られない、独特の進化と広がりを見せてきた日本の巨大ロボットアニメ。本展はそのデザインと映像表現の歴史を紐解き、「巨大ロボットとは何か」を問いかける展覧会です。ロボットアニメにリアリティを生み出すために重要な役割を果たしている設定上の「メカニズム」と「大きさ」を軸に、豊富な設定資料やプラモデル、メカニックデザイナーの宮武一貴氏による巨大な描き下ろし作品等を展示。
会期中の主なイベント	<ul style="list-style-type: none">・ 9/9 記念講演会①「日本の巨大ロボット群像とは」・ 9/10 記念講演会②「80年代のロボットアニメ」・ 10/15 「『機動戦士ガンダム』第1話を解剖してみる」



(1) 展示活動

特別展

日本の巨大ロボット群像－巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現



(1) 展示活動

特別展

永遠の都ローマ展

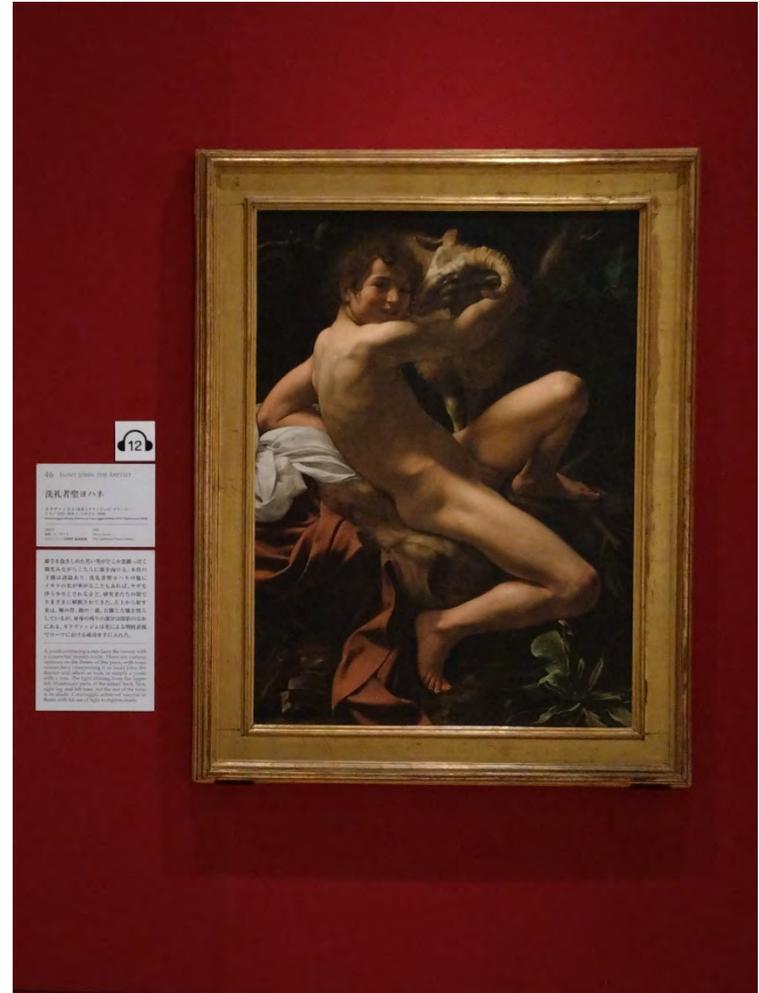
会期	令和6年1月5日～3月10日 57日間
主催	福岡市美術館、毎日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州
観覧者数	(開催中)
内容	栄えある歴史と比類なき文化を誇る永遠の都ローマ。カピトリノ美術館の所蔵品を中心とする約70点の作品を通して、建国から古代の栄光、教皇たちの時代から近代まで、2000年の歴史と芸術を紹介。福岡会場では初来日となるカラヴァッジョ《洗礼者聖ヨハネ》を福岡限定で公開。
会期中の主なイベント	<ul style="list-style-type: none">・1/7 記念講演会「永遠の都ローマ展の楽しみ方」・1/20 講演会「都市ローマを読み解く」・2/12 「永遠の都ローマ展」 特別プログラムスペシャルクラシックコンサート・2/9、22 学芸員によるギャラリートーク



(1) 展示活動

特別展

永遠の都ローマ展



(1) 展示活動

企画展

朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—

会期	令和5年9月13日～10月22日 35日間
会場	古美術企画展示室
主催	福岡市美術館
企画監修	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所）
観覧者数	30,220人 ※会期中のコレクション展示観覧者数
内容	1392年に創建され500年以上も続いた長命な王朝である朝鮮王朝の時代に制作された絵画44件を展示。 山水（22件）、人物（11件）、花鳥（11件）のジャンルごとにおよそ制作年代順に紹介することで、中国絵画の影響が濃厚な初期の画風から次第に独自の表現が確立されていく様子が明らかになる内容とした。
会期中の主なイベント	<ul style="list-style-type: none">・ 9/24 記念講演会「朝鮮王朝前期の山水画－古典としての宋と元」 講師：板倉聖哲氏（東京大学東洋文化研究所教授）・ 10/8、9 国際シンポジウム（共催事業）「半島由来文物を考える－高麗・朝鮮前期絵画と東アジア世界－」・ 10/21 つきなみ講座「朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—」 講師：宮田太樹（本展担当学芸員）



(1) 展示活動

企画展

朝鮮王朝の絵画—山水・人物・花鳥—



(1) 展示活動

企画展

オチ・オサム展

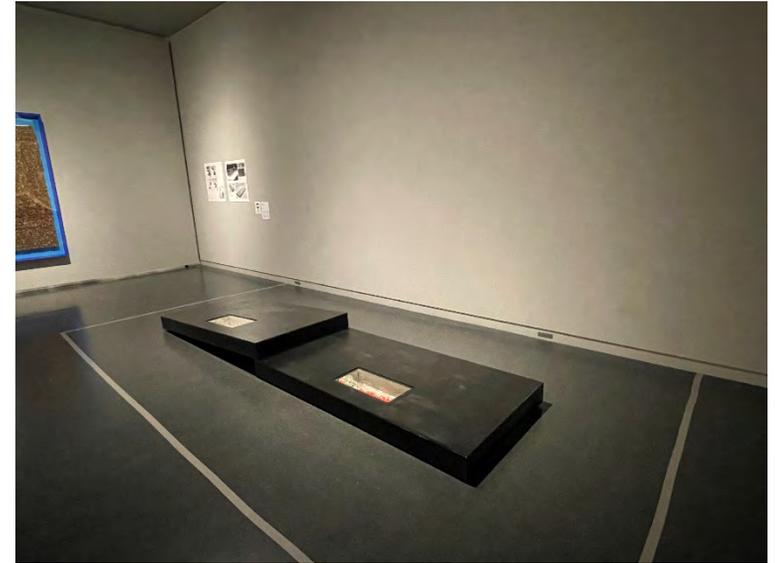
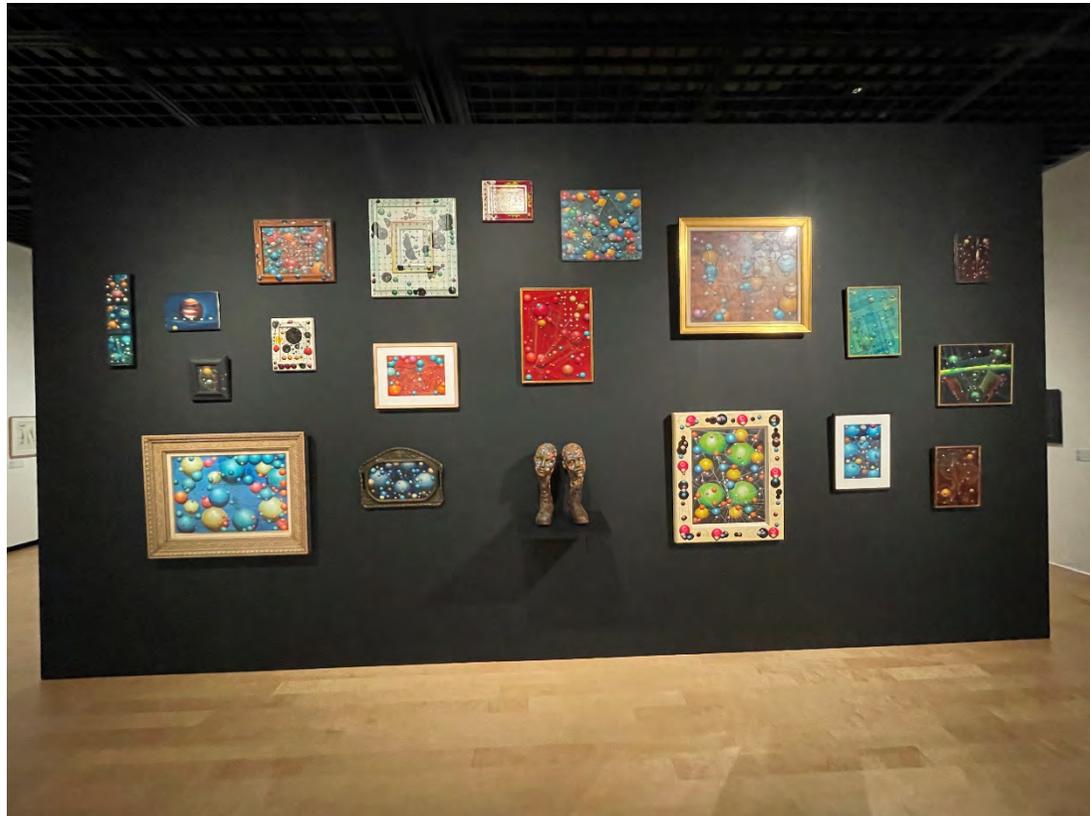
会期	令和6年1月24日～3月24日	53日間
会場	近現代美術室A・B	
観覧者数	(開催中)	
内容	九州派のメンバーとして活動した佐賀県出身の美術家、オチ・オサム(1936-2015)の回顧展。1950年代末にアスファルトや日用品を表現の素材として見出し、1960年代後半以降は球体をモチーフとした独自の絵画空間を作り出した作家の作品・資料約180点を紹介し、初期から晩年までの活動の全体像を浮き彫りにした。	
会期中の 主な イベント	<ul style="list-style-type: none">・2/10 つきなみ講座「オチ・オサムの人と作品」 講師：忠あゆみ（本展担当学芸員）・2/17 担当学芸員によるギャラリートーク 講師：忠あゆみ（本展担当学芸員）・2/24 記念講演会「オチ・オサム」 講師：藤井亜紀（東京都現代美術館本展担当学芸員）・3/3 記念講演会「宇宙（そら）に昇った画家を語る」 講師：深野治（『西日本文化』編集長）	



(1) 展示活動

企画展

才子・才サム展



(1) 展示活動

コレクション展 近現代美術



コレクションハイライト

通期

近現代美術室A、C



新収蔵品展（近現代美術）

3/24～6/11

近現代美術室A



第1回福岡アートアワード
受賞作品展

3/29～6/11

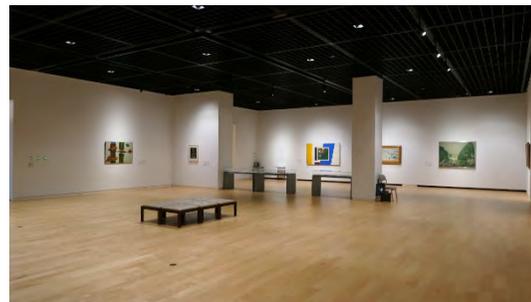
近現代美術室B



山好きな画家たち

6/22～8/27

近現代美術室A



時代で見る美術 1940年代

6/22～9/10

近現代美術室B



奈良原一高「王国」

8/29～11/5

近現代美術室A

(1) 展示活動

コレクション展 近現代美術



九州の女性画家たち2

10/27~1/21

近現代美術室B



日本画にみる人物表現

11/7~1/21

近現代美術室A



2023年1月



2024年1月

田中千智 壁画展示

~2025年12月末まで

コレクション展示室最終壁面

(1) 展示活動

コレクション展 古美術



東光院のみほとけ
通期
東光院仏教美術室



全部見せます！岩佐又兵衛
《三十六歌仙》
4/11～6/25
古美術企画展示室



新収蔵品展
4/11～6/25
古美術企画展示室



夏休み子ども美術館2023
うつくsea!すばらsea!
6/27～9/10
古美術企画展示室



幻の古陶現川焼-田中丸
コレクションを中心にー
10/25～12/27
古美術企画展示室



仙厓展
10/25～12/17
古美術企画展示室



狩野派絵画名品展
12/19～2024/2/18
古美術企画展示室



アジアの染織
インド、インドネシア、カンボジア
2024/2/20～4/21
古美術企画展示室

(1) 展示活動

コレクション展 古美術

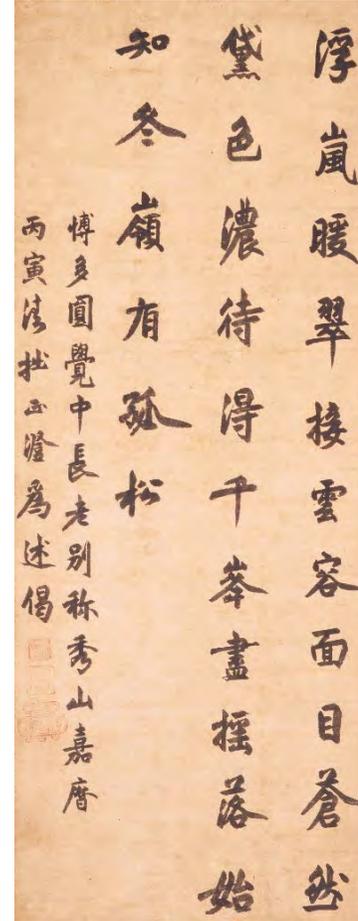


懐石のうつわ
一向付・鉢・酒器
6/13~8/20
松永記念館室

春の名品展
4/4~6/11
松永記念館室



秋の名品展
8/22~10/29
松永記念館室



海を越えた交流
一墨蹟を中心に
10/31~2024/1/14
松永記念館室



シリーズ 茶の湯交遊録Ⅲ
原三溪と松永耳庵
2024/1/16~3/17
松永記念館室

(1) 展示活動

公募展

・ 第54回福岡市美術展（令和5年3月28日～4月2日）

<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の美術活動の振興を図ることを目的に毎年開催する公募展。 ・ 日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、デザインの7部門について一般公募。
<p>実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出品点数720点 ・ 355点が入選、特別賞など入賞68点 ・ 観覧者数2,638人

・ 第55回は令和6年3月26日～3月31日で開催予定



第54回 大賞
洋画部門 井本悟 《ジョスイレン》



54th FUKUOKA CITY ART COMPETITION 2022

作品入選 令和5年3月28日(土)～29日(日) 10:00～17:00

福岡市美術館（美術展示室）

出品料 一般：1点3,000円、2点5,000円
 高校生・大学生：1点1,500円、2点3,000円

出品資格 福岡市内において毎年市民美術展を開催する本市市民、福岡市内への通勤、通学が条件となります。
 ・中学生以下の出品はできません。

第54回（令和4年度）

美福岡展市

会期 令和5年3月28日(土)～4月2日(日)
 福岡市美術館（福岡市中央区大濠1番6号）

観覧料 一般400円・高校生300円・小中学生無料
 開館時間 9:30～17:30（入館は17:00まで）

賞金

- 福岡市美術展大賞1点（20万円）
- 福岡市長賞2点（各10万円）
- 福岡市議会賞2点（各3万円）
- 福岡市教育委員会賞・福岡市美術館賞・福岡市文化財協会賞・福岡市文化財協会賞
- 福岡市文化財協会賞1点（3万円）
- 福岡市美術館賞2点（各1万円）
- 福岡市美術館賞2点（賞状、奨励賞30点）

FaN Fukuoka Art Next

日本画 | 洋画 | 彫刻 | 工芸 | 書 | 写真 | デザイン

主催：福岡市、福岡市教育委員会、福岡市美術館、福岡市美術館協会
 協賛：「公財」福岡美術協会、福岡文化協会、「公財」福岡市文化財協会、西日本新聞社、福岡市美術館
 協賛：「公財」福岡市美術館協会、福岡市美術館、福岡市美術館協会（TEL:092-714-6031）

(2) 教育普及活動

教育普及活動について

「アートと生きる」を活動方針に、展覧会を見るだけではない、利用者がより能動的な学びと楽しみを得られる活動を「教育普及活動」として行っている。

また、美術館に来にくい、あるいは来られない人も「利用者」として考え、美術を楽しむ企画を実施。

主な取組み

- ・ミュージアムウィーク2023
- ・こども・家族向けのプログラム
(夏休みこども美術館、ファミリーDAY、初めてのベビーカーツアー)
- ・大人向けプログラム (つきなみ講座、いきヨウヨウ講座 他)
- ・アウトリーチプログラム (どこでも美術館アウトリーチ[遠隔地の学校、公民館等])
- ・学校向けプログラム (スクールツアー、どこでも美術館ティーチャーズプラス)
- ・ボランティア活動
- ・バリアフリーギャラリートツアー
- ・他の機関との連携
- ・**▼令和5年度の新たな取組み** (『やさしいにほんご』ガイドブック発行等)

(2) 教育普及活動

ミュージアムウィーク2023

期間	令和5年5月13日～5月21日
内容	「国際博物館の日」を記念し、市内の20の美術館・博物館が、期間中にさまざまな催しを実施するというもの。 毎年紙でのスタンプラリーを実施しているが、本年度は紙媒体とオンラインのQRコードを併用したスタンプラリーを実施。
主なイベント	<ul style="list-style-type: none">・講演会「誰もが美術館を体験できるようになるには～美術館における『ユニバーサル』とは何かを考える」 講師：広瀬浩二郎（国立民族学博物館教授） （5/14 参加者数：60人）・初めてのベビーカーツアー （5/17、18 計2回 参加者数：こども8人 大人8人）・ボランティアによるギャラリートツアー （5/13～5/21 計16回 参加者数：53人）・建築ツアー（5/20 参加者数：18人）・つきなみ講座スペシャル（5/21 参加者数：86人）



建築ツアーのようす



初めてのベビーカーツアーのようす

(2) 教育普及活動

こども・家族向けプログラム

夏休みこども美術館2023「うつくsea! すばらsea!」

期間	令和5年6月27日～9月10日 期間中の中学生以下の来館者数：3,149人
内容	毎年開催する子ども向けプログラム。 令和5年度は「海」をテーマに古美術企画展示室にて所蔵品を展示。 キャプションを工夫し展示室内でワークシートを配布、掲示板方式で公開したほか、展覧会に関連して、3つの関連プログラムを実施した。「夏休みこどもとしょかん」では展示室内にコーナーを設け展示に関連する図書を紹介した。
主なイベント	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップ「みんなで大きな海をえがこう！」 (7/22 参加者数：20人)・ワークショップ「自分の海をつくろう！」 (8/6 参加者数：子ども14人 大人12人)・ギャラリートัวร์forキッズ! (8/16～20、22 計12回 参加者数：子ども46人)



展示のようす



ワークショップ「自分の海をつくろう！」

(2) 教育普及活動

ファミリーDAY2023 みて、きいて、はなして、つくって 家族で楽しむアートミュージアム

期間	令和5年11月3日～11月5日 期間中の中学生以下の参加者数：延べ1,384人（大人1,234人）
内容	家族で美術と美術館を楽しんでもらうため、期間中、館内各所でワークショップ等を実施する企画。本年は、すべてのプログラムを美術館内で実施。予約不要のプログラムを全日開催した他、参加人数を設けたワークショップについては事前応募とした。また、平日・土曜日には昨年同様「初めてのベビーカートツアー」を実施した。 なお、受付スタッフやワークショップスタッフに当館ボランティアおよび学生ボランティアが従事した。
主なイベント	【事前応募なし】 ※参加者数は大人・子どもを合わせた数 ・ワークシート 「かいとうキッズ 美術館の謎をとけ！」（11/3、4、5 参加者数：968人） ・ワークショップ 「ミニミニワークショップ」（11/3、4、5 参加者数：519人） 「つくって、遊ぼう！コブウシくんとおすもうさん」、 「お面をつくって作品に変身！」（11/3、4、5 参加者数：995人） 【事前応募】 ・ワークショップ 「つくってわかる 額縁のひみつ」（11/3 参加者数：17人） 「版画で仙厓さんの布バッグをつくろう！」 講師：三枝孝司（九州産業大学芸術学部教授）（11/4 参加者数：57人） 「アーティスト藤浩志さんとヤセ犬をつくって散歩する」 講師：藤浩志（美術家）（11/5 参加者数：33人） ・ギャラリーツアー 「初めてのベビーカートツアー」（11/4 参加者数：29人）



かいとうキッズ 美術館の謎をとけ！



ミニミニワークショップ



藤浩志さんとヤセ犬をつくって散歩する

(2) 教育普及活動

大人向けプログラム

つきなみ講座

期間	毎月1回 参加者数：380人 ※1月末時点
内容	毎月1回学芸員をはじめとした美術館職員が、自身の研究や取組、興味について一般向けに話す講座。



いきヨウヨウ講座「のびのびアート鑑賞」

期間	令和6年3月23日 参加者数：20人定員
内容	65歳以上を対象としたワークショップ。令和5年度は彫刻を題材に触覚に着目したプログラムを行う。実際に作品を触り、視覚だけではない多角的な鑑賞体験を目指す。

ギャラリーツアー

内容	ボランティアが来館者に向け所蔵作品を3点紹介する対話型ギャラリーツアー。1日2回実施。昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止していた事業を令和5年度4月より再開した。
----	---

(2) 教育普及活動

アウトリーチプログラム

どこでも美術館 アウトリーチ

期間	令和5年6月～9月
内容	美術館に来にくい、あるいは来られない子どもや高齢者のために、学校や公民館、病院などに、所蔵品の複製画などの教材を持ち出し、鑑賞・制作活動を行うプログラム。
実施数	・学校3校、院内学級1校 児童・生徒数 211人 教員59人 ・公民館等（子ども含む）11件 200人 （令和6年1月末時点）



特別支援学校へのアウトリーチ



公民館での開催のようす

(2) 教育普及活動

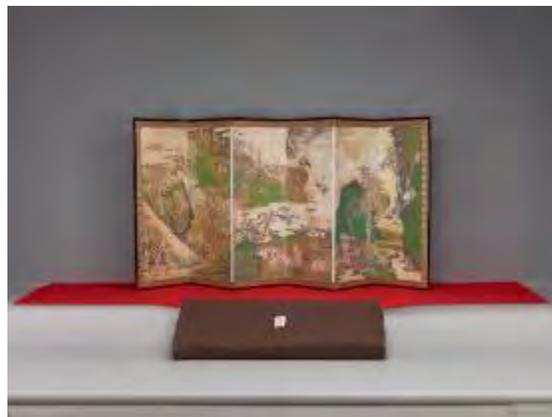
学校向けプログラム

スクールツアー

内容	ボランティアによる学校向け対話型鑑賞ツアー (幼稚・保育園～大学および放課後学級等)		
実施件数	市立・小中学校 6件 434人 / その他 7件 616人	※児童・生徒数 (1月末時点)	

どこでも美術館 ティーチーズプラス

内容	学校等に「どこでも美術館」の教材を貸し出し、授業に活用してもらうプログラム。		
貸出件数	6件 (小～大学)	※1月末時点	



《韃靼人狩猟図屏風》複製



日本画画材ボックス

(2) 教育普及活動

ボランティア活動

内容

当館では、昭和51年にボランティアを募集し、昭和54年の美術館開館と同時に活動を開始。

現在、ギャラリーガイドボランティア、新聞情報ボランティア、図書整理ボランティア、美術家情報整理ボランティアが活動している。

コロナ禍中は活動回数を減らしていたが、令和4年度12月頃より新聞情報、図書整理、美術家情報整理ボランティアは通常活動に戻った。ガイドボランティアは令和5年度4月より定時のギャラリーツアーを再開した。また、スクールツアー、初めてのベビーカーツアー、ファミリーDAYなどのサポートも行っている。本年度、館外研修、交流会なども再開した。

各ボランティア 在籍数

- ・ ギャラリーガイドボランティア 71人
- ・ 新聞情報ボランティア 39人
- ・ 図書整理ボランティア 25人
- ・ 美術家情報整理ボランティア 12人
- 計 147人



新聞情報と図書整理ボランティア活動のようす



福岡アジア美術館にて実施した
ボランティア館外研修

(2) 教育普及活動

バリアフリーギャラリーツアー

期間	令和5年8月26日、9月2日、9月3日
内容	<p>視覚障がい者、聴覚障がい者、車椅子利用者のためのコレクション展示ギャラリーツアーを実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・聴覚障がい者のための目で聴くツアー (実施日：8/26 参加者数：5人)・車いす利用者のためのゆったり車いす鑑賞ツアー (実施日：9/2 参加者数：7人)・車いすを利用しない方の車いすで美術館ツアー (実施日：9/2 参加者数：8人)・視覚障がい者のためのおしゃべりとてざわりのツアー (実施日：9/3 参加者数：12人)



視覚障がい者のためのおしゃべりとてざわりのツアー

他の機関との連携

白鳥建二氏鑑賞プログラム

期間	令和5年9月1日
内容	<p>福岡市文化芸術振興財団主催「アートとのいろいろな関わり方」内の企画として、「白鳥建二氏による鑑賞会」を、コレクション展示室にて共同開催。 (参加者数：5人)</p>



白鳥建二氏による鑑賞プログラム

(2) 教育普及活動

令和5年度 文化庁 Innovate MUSEUM事業

「アートバス 香りで旅する美術館」

期間	令和5年12月1日実施
内容	九州産業大学美術館との共同開催。九州産業大学美術館が、東区在住の高齢者向けにバスをしたて、当館へ案内。本年は香りをテーマに、コレクション展示ギャラリーツアーの後、大分香りの博物館学芸員の大津留聡氏による匂袋作り等の調香体験を実施。

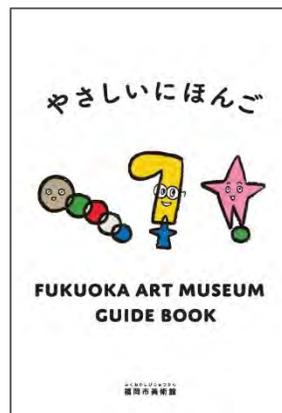


アートバス 香りで旅する美術館

▼令和5年度の新たな取組み

多文化共生プログラム『やさしいにほんごガイドブック』発行と「やさしい日本語ツアー」開催

期間	令和5年8月発行／8月20日、11月19日ツアー
内容	福岡よかトピア国際交流財団との共同企画。8月に『やさしいにほんごガイドブック』を新たに発行し、8月と11月に連動して在住外国人親子向けにツアーを実施。コレクション作品を「やさしい日本語」を使用して鑑賞した。



やさしいにほんご
ガイドブック



やさしい日本語ツアー

(3) 収集活動（購入、寄贈）

購入

◆新規収集

- ・塩田千春 《記憶をたどる船》 2023年

◆福岡市文化芸術振興財団からの買戻し

- ・仙厓義梵 筆、太室宗宸 賛 《寒山拾得図》 江戸時代19世紀
- ・《小花文様木版更紗布地》 ヨーロッパ19世紀
- ・梅田哲也 《壁のおわり Fricco # 1、# 2、# 5、# 6》 2019年
- ・川辺ナホ 《水平線は傾かない》 2013年
- ・酒井抱一 《日課観音図》 江戸時代 文政7年（1824年）

寄贈

- ・近現代美術 18件（油彩、工芸、素描等）
- ・古美術 134件（絵画、陶磁、染織等）

(3) 収集活動（購入、寄贈）

購入

◆新規収集（近現代美術）



塩田千春《記憶をたどる舟》

2023年

インスタレーション（ロープ、鉄枠、写真）

(3) 収集活動（購入、寄贈）

寄贈

・近現代美術18点（油彩、工芸、素描等）



藤野一友《夜》、《伽藍》、《「未醒」のための習作》ほか

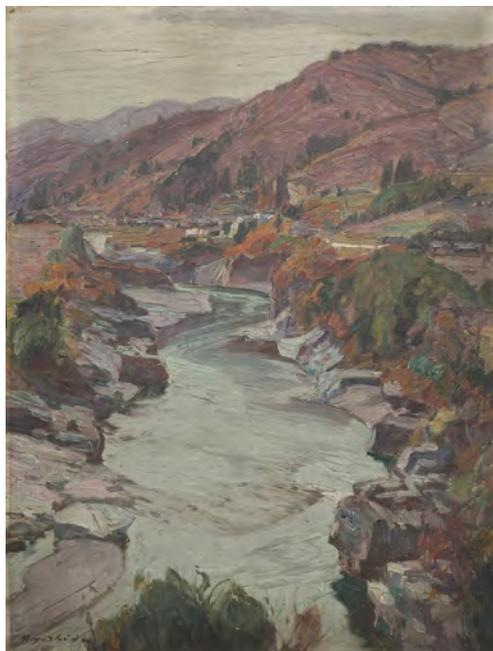
15点

油彩、素描等

(3) 収集活動 (購入、寄贈)

寄贈

・ 近現代美術18点 (油彩、工芸、素描等)



吉田博 《題不詳》

1点

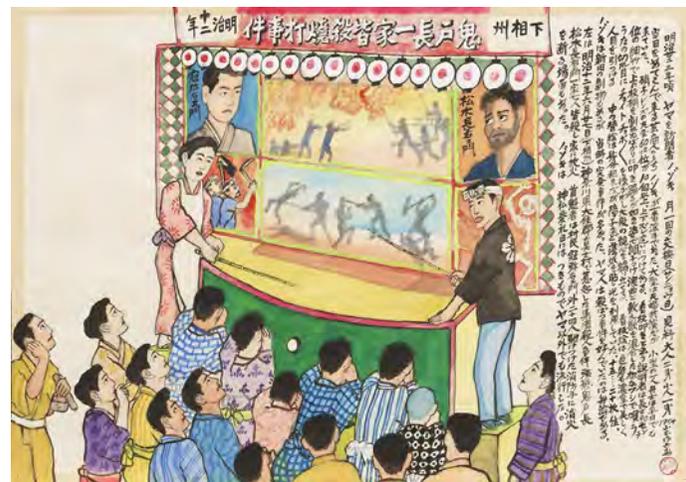
油彩



高巢典子 《太陽の下》

1点

工芸



山本作兵衛 《題不詳》

1点

水彩

(3) 収集活動（購入、寄贈）

寄贈

・古美術134件（絵画、陶磁、染織等）



《人物幾何学文様経緯緋経糸
緯糸紋織（グリーンシン）》

インドネシア 19世紀

木綿、撚金糸
229.0×54.0cm



仙厓義梵
(1750-1837)
《庚申尊天図》

江戸時代 19世紀

紙本墨画
89.6×27.7cm



須恵焼
《白磁椎茸形手付鉢》

江戸時代 19世紀

磁器
高さ8.0 径24.5
底径10.3cm

(3) 収集活動（購入、寄贈）

寄贈

・古美術134件（絵画、陶磁、染織等）



バン・チェン
《黒陶刻線文広口壺》

タイ
紀元前3600～前1000年頃
土器 高さ28.0 胴径23.6
高台径12.0



シーサッチャナーライ窯
《練上手壺（陶片）》

タイ 15世紀
陶器 高さ24.5（現状）
胴径23.5 高台径15.0



《羅漢立像（塼仏）》

中国 宋時代カ

粘土焼成 高さ10.8
台座幅4.7 奥行2.6cm

(4) 調査・研究活動

紀要の発行

『福岡市美術館研究紀要』 第12号 (令和6年3月発行)

【資料紹介】

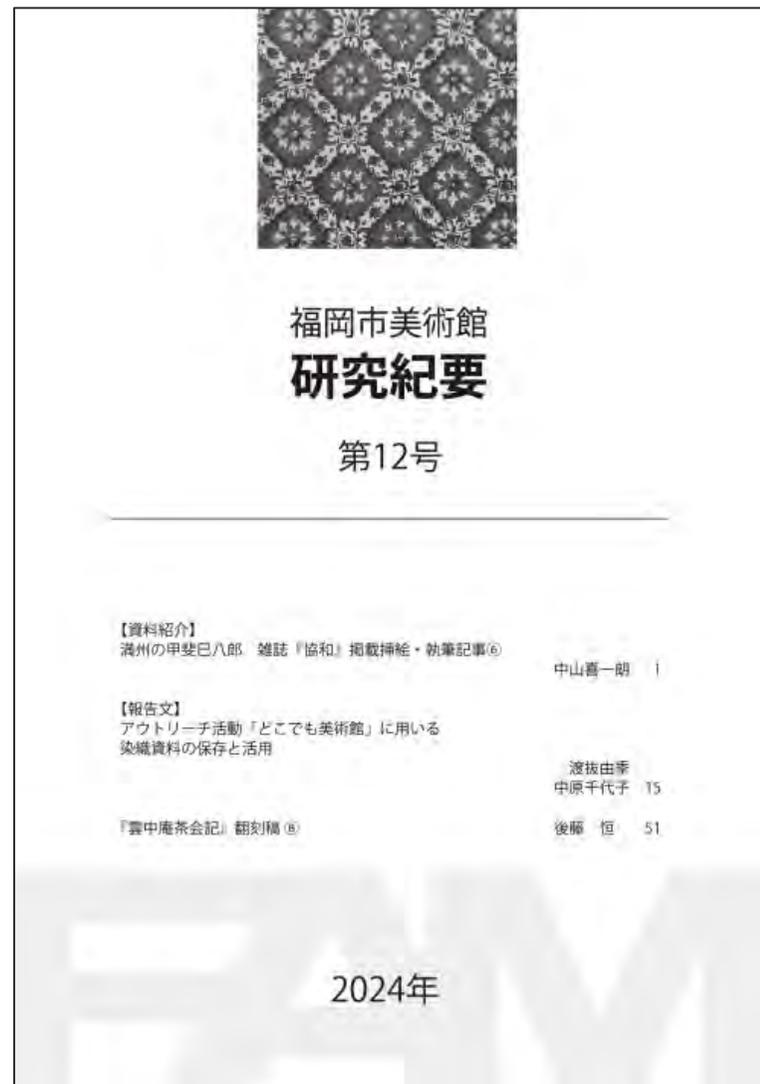
満州の甲斐巳八郎 雑誌『協和』掲載挿絵・執筆記事⑥
総館長 中山 喜一郎

【報告文】

アウトリーチ活動「どこでも美術館」に用いる染織資料
の保存と活用
学芸課 渡抜 由季、中原 千代子

『雲中庵茶会記』翻刻稿⑧

学芸課 後藤 恒



(5) 貸館利用

貸館利用

【展示室】

- ・ 市民等の創作活動の発表の場としてギャラリー（最大6室）特別展示室を貸出（年2回募集、1週間単位での利用）
- ・ 令和5年度貸館利用 146件 223,624人 ※令和6年1月末現在/特別展示室4件含む
（令和4年度利用状況 122件 91,394人 ※令和5年1月末時点/特別展示室1件含む）



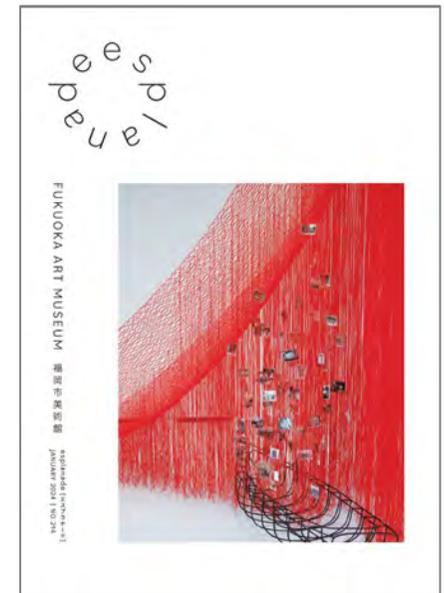
【ホール等】

- ・ 文化芸術・学術に関する講演会や講座、ワークショップ、イベントなどの利用に際してミュージアムホール、レクチャールーム、アートスタジオのほか、ロビーや1、2階の屋外を貸出
- ・ 令和5年度利用状況 468件 25,541人 ※令和6年1月末現在
（令和4年度利用状況 463件 42,876人 ※令和5年1月末時点）



広報活動

- ・季刊誌「エスプラナード」を年4回発行
- ・展示・イベント実施等に関する報道・出版各社への情報提供



(6) 広報・集客に関すること 等

広報活動

- ・ HPブログや各種SNS（Facebook、Twitter、Instagram）による情報発信
- ・ SNS広告の実施
- ・ 媒体広告の実施



その他

- ・ デジタルサイネージの運用

アプローチ広場に設置されているデジタルサイネージにて市美術館のプロモーション動画、市美術館で開催する特別展の情報等を発信。



(6) 広報・集客に関すること 等

集客事業

- ・ 展示以外でも美術館を気軽に利用してもらえよう、落語や演奏会を実施。
※ 美術館PFI事業を担う福岡アートミュージアムパートナーズ(株)主催

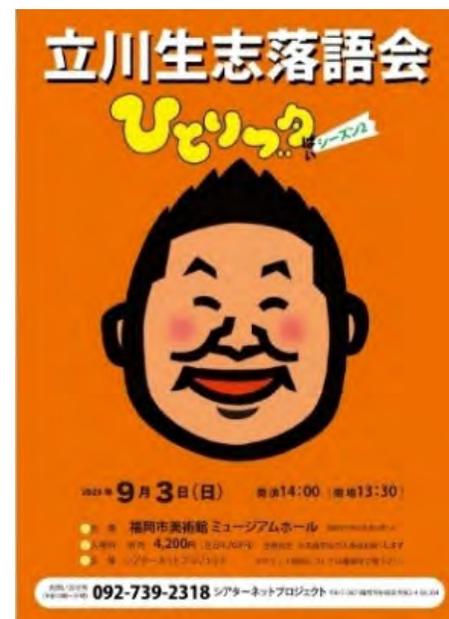
▼令和5年度の新たな取り組み

- ・ 令和5年12月からグランドピアノ「レガシーピアノ」の運用を開始。
ミュージアムホールの一般利用者に対する貸出、および下記イベントでの利用を実施。
- ・ 令和5年度は6件のイベントを実施。(予定を含む)
 - 令和5年 5月：FAMシネマテーク vol.8「リム・カーワイの世界」
 - 令和5年 9月：立川生志落語会 ひとりブタばいシーズン2
 - 令和5年10月：ワークショップ 花火作り
 - 令和5年12月：「親子で楽しむクリスマスコンサート ART MUSICA」
 - 令和6年 2月：「ジャズを聴きたくて～国府弘子プレミアム・コンサート」
 - 令和6年 3月：万能グローブガラパゴスダイナモス「三途の川のクチコミ」



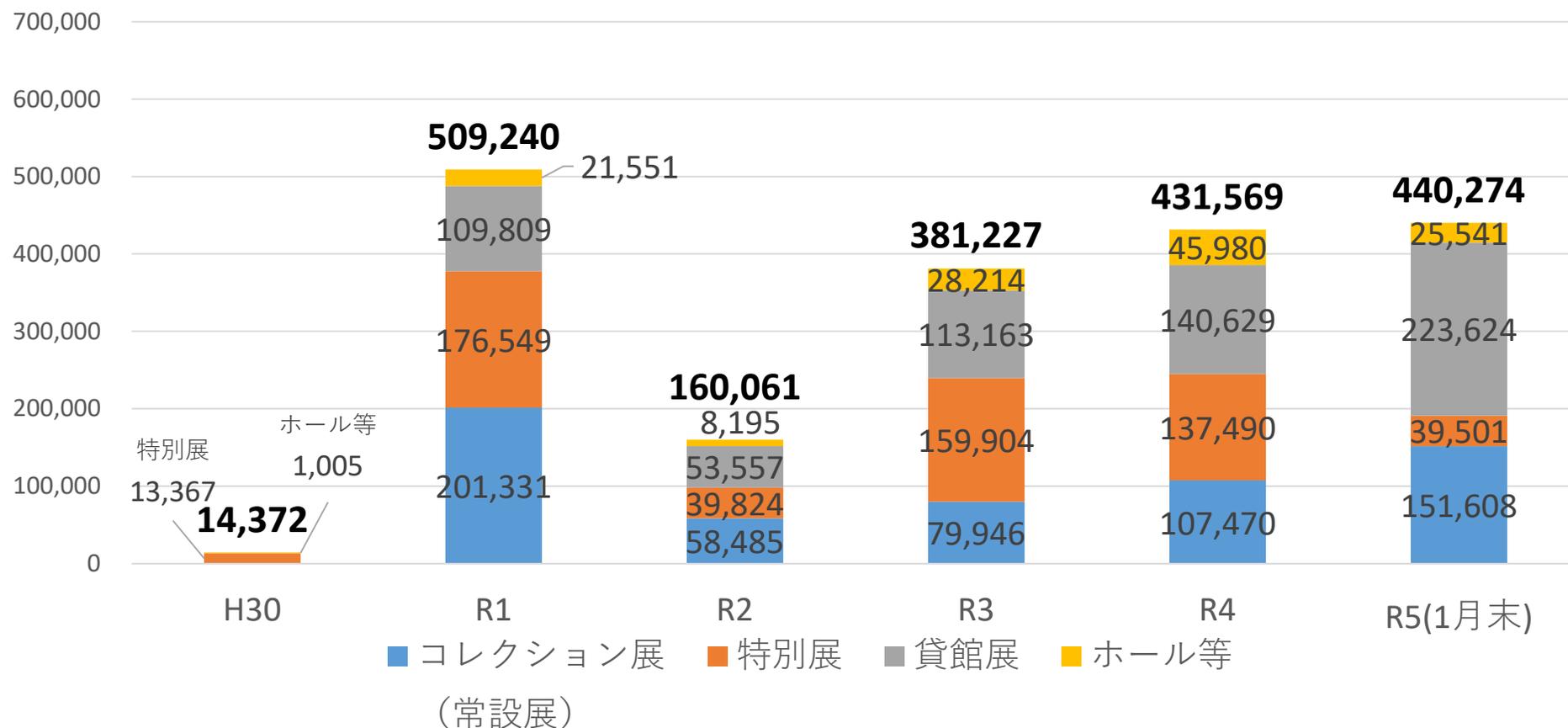
その他（連携・協力事業等）

- ・ 福岡ミュージアムウィーク2023
- ・ FaN Week 2023
- ・ 福岡市交通局「駅デコバッグでスタンプラリー」



3 施設利用状況

施設利用者数の推移



※H28.9.1～30.3.20までリニューアル改修による休館

※新型コロナウイルスの影響によりR2.2.27～3.20、4.5～5.18、R3.5.12～6.20、8.9～9.13は臨時休館（ただし、令和3年度は一部展覧会及びイベントのみ休館中も開催）

福岡市美術館 令和6年度事業計画

令和6年3月25日
令和5年度福岡市美術館協議会

1 観覧者目標：42万人

(参考：実績)

令和5年度：414,733人（1月末）、令和4年度：385,589人、令和3年度：353,013人

2 令和6年度予算

内容	予算額（千円）	備考
【歳出】	810,910	施設管理、展覧会経費、教育普及、資料収集費 など
【歳入】	59,561	施設使用料、駐車場、コレクション展観覧料、ふくおか応援寄付 など

3 主な事業、取組みについて

特別展

ADAPTATION - KYNE

会期	令和6年4月20日～6月30日 62日間
主催	福岡市美術館、有限会社インディチェ、株式会社LOCUS、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団
内容	KYNEは、1988年生まれ、大学時代に日本画を学び、2006年頃から制作活動を開始した、福岡を拠点とするアーティスト。1980年代の漫画やアイドルのレコードのジャケットからインスピレーションを受けた、クールな表情の女性を描くことで知られており、アパレルブランドとのコラボレーションやCDジャケットのイラスト、広告などを展開することで、国内外で大きな注目を集めている。本展は、福岡市美術館での期間限定の壁画も話題となったKYNEの、国内初となる大規模個展として、巨大な新作壁画を含む絵画、版画、ライトボックス、立体、ドローイングなどあわせて約150点を展示し、その魅力を探る。
会期中の 主な イベント	学芸員によるギャラリートークなどを予定



KYNE
《Untitled》
2024年

3 主な事業、取組みについて

特別展

キース・ヘリング展 アートをストリートへ

会期	令和6年7月13日～9月8日 50日間
主催	福岡市美術館、西日本新聞社他
内容	明るく、ポップなイメージで世界中から愛されているキース・ヘリングは、「アートはみんなのために」という信念のもと、1980年代のニューヨークを中心に地下鉄駅構内やストリートといった「日常」にアートを拡散させることで、混沌とする社会への強いメッセージを発信し、人類の未来と希望を子どもたちに託しました。本展では、6メートルに及ぶ大型作品を含む約150点の作品を通して、キース・ヘリングのアートを体感いただきます。
会期中の 主な イベント	未定



キース・ヘリング
《アイコンズ》1990年
中村キース・ヘリング美術館蔵
Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

3 主な事業、取組みについて

特別展

博多のみほとけ

会期	令和6年10月26日～12月8日	44日間
主催	福岡市美術館、西日本新聞社	
内容	アジアとの窓口であった博多に所在する神社仏閣には、仏像、絵画、工芸など様々な文物が大切に守り伝えられている。 本展では、コの字形をした展示室を博多湾に見立てて、それぞれの地域に伝わる仏教美術を紹介する。	
会期中の 主な イベント	講演会などを予定。	



《阿弥陀如来坐像》
平安時代 10世紀
円覚寺（福岡市博多区）



左) 《千手観音菩薩立像》平安時代 10世紀
小田観音堂（福岡市西区）



右) 《聖観音菩薩立像》平安時代 9世紀 50
荘厳寺（福岡市東区）

3 主な事業、取組みについて

企画展

あらがう

会期	2024年9月14日～12月15日 80日間
主催	福岡市美術館
内容	戦争や災害、格差などで苦しむ人々が存在する現代、私たちはどのように立ち向かうべきなのか。過去と現在、神と人、生と死などをキーワードに、現代美術作家による映像や絵画作品で考える企画展。
会期中の 主な イベント	講演会などを予定。



石原海《重力の光》2021年

3 主な事業、取組みについて

企画展

世を観る眼 白醉庵・吉村観阿

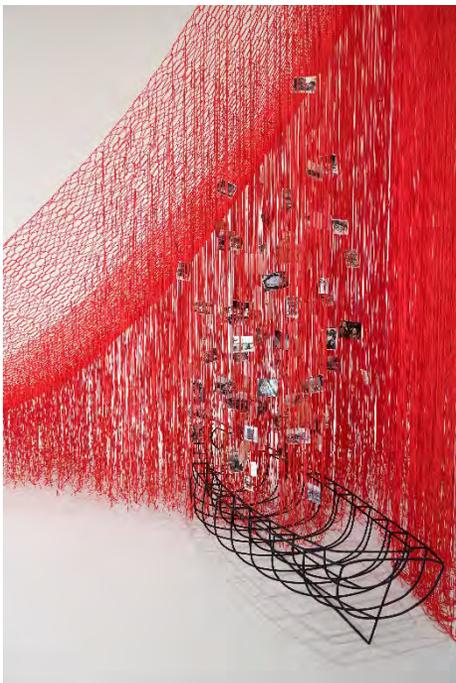
会期	令和6年11月27日～令和7年1月19日 40日間
会場	古美術企画展示室
主催	福岡市美術館
内容	吉村観阿(1765-1848)は、江戸時代後期、茶の湯道具の“目利き”で人生を切り開いた人物である。40歳の頃には大名茶人・松平不昧と交流し、不昧没後は新発田藩主・溝口家に出入りし、同家蔵品の鑑定や数寄道具の取り次ぎで活躍した。そうした実績から、観阿の箱書きはそれ自体が価値となり、現代に至るまで高く評価されている。本展は観阿の目利きとしての足跡と、江戸における様々な文化人との交流を物語る資料を展観し、観阿が見通した人生や美術に対する目利きとは何か、さらには今日的な意義を紹介する。
会期中の 主な イベント	講演会などを予定。



白呉須獅子蓋香炉 個人蔵

2 主な事業、取組みについて

コレクション展 近現代美術



コレクションハイライト
通期
近現代美術室A、C



第2回福岡アートアワード
受賞作品展
3/28~6/2
近現代美術室A、B



新収蔵品展
3/28~6/2
近現代美術室B



野見山暁治のしごと
6/13~9/8
近現代美術室B

3 主な事業、取組みについて

コレクション展 近現代美術



夏休みこども美術館2024
道、その先には何がある？
6/13～9/1
近現代美術室A



水彩って何？
9/3～12/8
近現代美術室A



雪景色
12/10～3/23
近現代美術室A



奈良原一高
「ヴェネツィアの夜」 「ジャパネスク」
12/18～3/23
近現代美術室B

3 主な事業、取組みについて

コレクション展 古美術



春の名品展

3/19~6/2

松永記念館室



新収蔵品展

4/23~6/16

古美術企画展示室



表具のキホン

6/4~8/18

松永記念館室



源氏物語の世界

6/18~8/4

古美術企画展示室



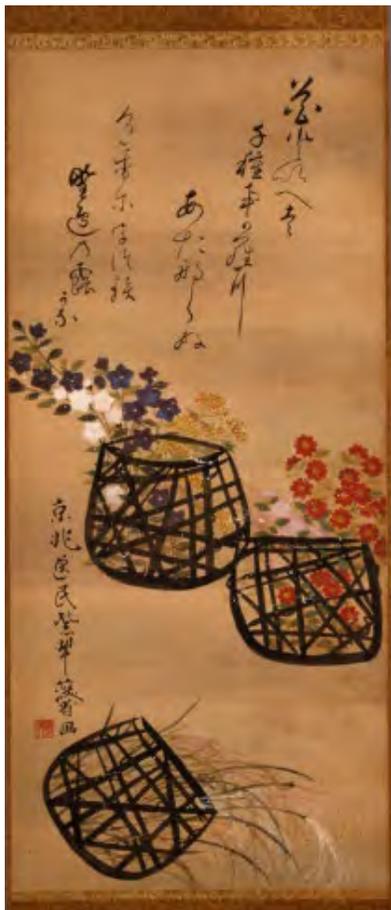
田中丸コレクション
華やかなる九州の桃山茶陶

8/6~9/29

古美術企画展示室

3 主な事業、取組みについて

コレクション展 古美術



秋の名品展

8/20~10/27

松永記念館室



仙厓展

10/1~11/24

古美術企画展示室



松永耳庵と福岡ゆかりの品々

10/29~2025/1/26

松永記念館室



高麗茶碗と和物茶碗

2025/1/28~3/23

松永記念館室



染と織の美術

2025/1/22~3/16

古美術企画展示室

3 主な事業、取組みについて

教育普及活動での主な取組み

▼令和6年度から拡充する取組み

スクールツアー（対話型アート鑑賞）

【拡充】市立小学校がミュージアム3館を利用する際の貸切バス代を補助

- ・福岡ミュージアムウィーク2024（5月18日～26日）
- ・夏休みこども美術館2024（6月13日～9月1日）
- ・ファミリーDAY（11月3日）
- ・つきなみ講座（毎月1回）
- ・いきヨウヨウ講座（令和7年3月）
- ・どこでも美術館（アウトリーチ[7月～9、1月]、ティーチャーズプラス[通年]）
- ・バリアフリーギャラリーツアー（9月）
- ・ボランティア活動（令和7年度新規ボランティアを夏期に募集）
- ・他の機関、施設との連携
- ・多文化共生プログラムおよび高齢者向けのプログラムは引き続き実施予定



対話型アート鑑賞の様子



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM